

令和8年度 事務事業評価シート（1）

[令和7年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	骨髄移植普及促進事業				事業番号	011-261	
担当部署名	健康福祉局	局	保健所	部	保健医療業務課		課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画2025	施策 との 関連	有・無	戦略	—	施策	—	
			無	取組の方向性	—			
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—			
			無	現状値	—	目標値	—	
	堺市SDGs 未来都市計 画 2021-2025	施策 との 関連	有・無	ゴール	—	ターゲット	—	
			無	取組	—			
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—			
			無	現状値	—	目標値	—	

2	関連計画	—		
3	事業開始年度	平成 29 年度	点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度
4	実施根拠	移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律		

事業の概要

5	事業の実施主体	本庁、NPO法人		
6	事業の対象	堺市民（特に18歳以上54歳以下の骨髄ドナー登録が可能な方をはじめとする市民）	対象数	単位
			約80万	人
7	事業の目的	広く市民に対し、骨髄移植への理解を深め、ドナー登録協力への意識を醸成し、また、ドナーが骨髄を提供しやすい環境整備を行う。		
8	事業内容	骨髄移植は、白血病等の血液疾患に対する有効な治療法の一つであるが、骨髄移植には患者さんとドナーのHLA型（白血球の型）の適合が必要であり、適合率は、非血縁者（他人）間では数百～数万分の1の確率で、かつ、適合した場合であっても、ドナーの方々の様々な事情等により、実際に移植を受けることができる方は約6割に留まっている。こうした状況を踏まえ、協定先であるNPO法人関西骨髄バンク推進協会をはじめ、大阪府や日本赤十字社、学生等との協働・連携を強化しながら下記事業に取り組む。 ① 看護学校、大学、企業等での勉強会の実施、文化祭等によるPR（骨髄移植の理解促進） ② 献血併行型ドナー登録会の効果的实施（ドナー登録者増加のための取組） ③ 骨髄ドナー支援事業の実施（ドナーが骨髄等を提供しやすい環境の整備）		
	※国・府の基準より上回って実施した内容	①国・府が未実施である骨髄ドナーに対する支援金事業（通院、入院2万円／日（上限14万円））を実施②ドナー登録や普及啓発等を積極的に推進するため、NPO法人と協定を締結		
9	主な支出先	骨髄ドナー		
10	公民連携・協働事業	NPO法人、大阪府、日本赤十字社、市民、学生等と協働し、普及啓発イベントやドナー登録会の実施		

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標	単位		実績		目標	目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
	献血併行型ドナー登録会での新規登録者数	人	目標値	394	314	241	290
			実績値	220	239		
			達成率	56%	76%		
当該指標を選定した理由	ドナー登録者が増えるほど、骨髄移植を必要とする患者を多く救うことができ、また、骨髄移植に対する市民理解度を図ることができると思われるため。						
目標値の設定根拠・算出方法	過去2年の実績値平均から5%増を目標とする。						

12	活動指標	単位		実績		目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	
	骨髄ドナー登録会の開催回数	回	目標値	60	50	50	
			実績値	47	40		
			達成率	78%	80%		
当該指標を選定した理由	ドナー登録を効果的に増やすには、献血と併せて実施する登録会を増やすことが有効であり、また、登録会は普及啓発の場でもあるため。						
目標値の設定根拠・算出方法	過去2年の実績値平均を踏まえ、年間50回（4回/月の実施）を目標値に設定。						

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	骨髄移植普及促進事業	事業番号	011-261
-------	------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

	項 目	令和5年度	令和6年度	令和7年度		令和8年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	2,799	1,683	4,502	3,721	3,516
	財 源					
	国支出金	0	0	0	0	0
	府支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他（事業費、積立金）	2,782	1,683	4,372	3,721	3,516
	内 訳					
	受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0
	一般財源	17	0	130	0	0
14	人件費（b）	810	810	840	840	870
15	年間経費（c）=(a)+(b)	3,609	2,493	5,342	4,561	4,386

事業費の内訳

（単位：千円）

	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		R7	決算				R7	決算		
16	ドナー支援金	R7	決算	700	0	謝礼金	R7	決算	110	0
		R8	予算	1,400	0		R8	予算	182	0
	基金積立	R7	決算	2,519	0	委託金	R7	決算	297	0
		R8	予算	1,400	0		R8	予算	300	0
	郵送料	R7	決算	1	0		R7	決算		
		R8	予算	30	0		R8	予算		
	旅費	R7	決算	39	0		R7	決算		
		R8	予算	44	0		R8	予算		
	需用費	R7	決算	55	0		R7	決算		
		R8	予算	160	0		R8	予算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

	区 分	単位	令和6年度	令和7年度
17	① 献血併行型ドナー登録会での新規登録者数	人	220	239
	② 上記①にかかる年間経費	千円	2,493	4,561
	③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	11,332	19,084
	算出についての説明等		献血併行型ドナー登録会での新規登録者数及び人件費を算出	

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	関係団体との協働による登録会の実施等により新規ドナー登録者数は増加したが、主に若年層への啓発の実施による事業拡充の影響と寄附金受入額の増加に伴う基金積立額の増加により、年間経費が増加し、単位当たり経費は増加した。
	なお、ドナー支援金については、提供機会の確保が重要であることから、一定の費用負担を伴うものの、事業目的の達成に資する効果がある。本事業における骨髄移植に係る啓発活動やドナー登録会、ドナー支援金事業については、寄附金を主な原資として実施している。令和6年度からは企業版ふるさと納税クラウドファンディングを活用し、財源の確保を図りつつ、若年層への啓発を強化することで、より効果的な事業を実施している。

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	全国的な登録対象年齢層の減少等により今後一層厳しい状況が見込まれる中、NPO法人関西骨髄バンク推進協会や日本赤十字社等との継続的な協働により、一定の新規ドナー登録者数の確保ができています。
	また、若年層を対象とした学校への普及啓発の実施により、新規ドナー登録者数の増加にもつながっており、ドナーが骨髄等を提供しやすい環境整備を目的としたドナー支援事業とあわせて、市民の骨髄移植への理解促進と、ドナー登録協力への意識の醸成に寄与したものと考える。

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）

20	必要性	■ 高い □ 低い	骨髄移植を必要とする患者を支援するためにはドナー登録者の確保が不可欠であるが、55歳到達に伴い多くの既存登録者が順次バンクから抹消される状況が続くため、特に若年層の登録者の増加が求められている。こうした課題を踏まえ、学校へ赴き若年層に直接働きかける本事業は、認知及び理解の向上に寄与しており、その必要性・有効性は高い。更に、関係団体の協力により出務者が確保されていることから、安定的な事業運営が可能となっている。
	有効性	■ 高い □ 低い	